



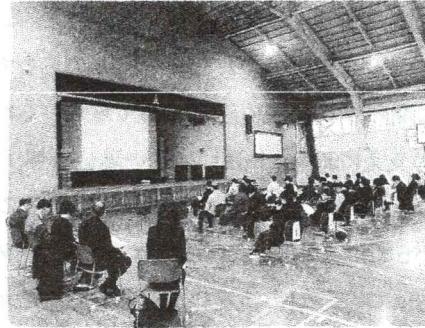
「小中一貫した児童・生徒支援のあり方」

青葉中学校 生徒支援部 中澤宏佳

11月30日(木)、本校体育館にて第3回小中合同研修会(兼第2回生徒指導研修会)が開催されました。小中合わせて30名ほどの先生方に出席いただき、大変有意義な研修会となりました。改めて感謝申し上げます。

今回の研修会では、「中学校への不適応と不登校について」「生徒指導を柱としたグループ交流」の2つの話題を中心に実施しました。

1つ目の「中学校への不適応と不登校について」ですが、北翔大学教授による講義でした。スライドによる説明は、①思春期について ②各年代による児童や生徒の特徴 ③中1ギャップについて ④不登校の現状とその対応について の4点がありました。理論的な内容に加えて、現場での具体的な対応など話題が多く含まれていたため、大変興味深く、説得力のある内容でした。参加された先生方からは、「日々、児童の対応で迷っていることが多いので具体的な言葉がけを参考にしていきたい」「わかっている気になっていた不登校生徒の内部に生じている事象について、新たな視点を得ることができ、改めて自分の対応を考え直すきっかけになった」など、数多くの前向きな感想をいただきました。



2つ目の「生徒指導を柱としたグループ交流」では、小学校と中学校の先生方で小グループをつくり、日々の生徒指導で思っていることや義務教育学校化に向けての生徒指導面で不安に思っていることなど、情報交流を行いました。話題として挙がったのは、児童や生徒に対するアセスメントの重要性や不登校生徒への小学校と中学校のサポート体制についてなどです。今回のグループ交流は、時間の制限があり、小学校と中学校の交流が十分にできませんでした。しかし、先生方の熱心な交流活動の様子を見て、義務教育学校化に向けての熱い思いを感じることができました。

これからも、小学校と中学校の先生方が手を取り合って、たくさんの交流や研修を深めていきながら、児童や生徒の成長をサポートしていきたいと再確認できた合同研修会となりました。

「地域と共に」

共栄小学校 川野 淳

本校では、子どもが「ヒト・モノ・コト」と深く関わりながら主体的に活動できるよう学習を進めています。その中で、地域の環境や人材を生かした本校の取組の一部を紹介します。

4年生 新札幌への校外学習

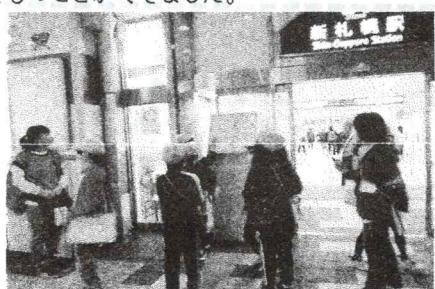
「やさしさキラリ!みんなのまち」をテーマに新札幌駅やサンピアザに「まち」の人に対するやさしさ探しを行いました。子どもたちは、実際に点字ブロックや手すり、案内表示を見付けたり、お店の方に直接お話を聞いたりするなどして、妊婦さんや小さな子ども連れの方、外国人の方などへの「まちのやさしさ」について再発見することができました。

この学習を通じて、自分たちの暮らしがこのように支えられていることに気付き、「もっと身近なユニバーサルデザインについて調べたい。」「体の不自由な人がいたら助けたい。」という思いをもつことができました。

6年生 保護者の方から仕事について話を聞く

「はばたけ未来へ」をテーマに「働く」とは何かを問いかける学習を行いました。子どもたちが、働くことの「意義」や「大切さ」、「働く喜び」を感じるとともに、どのような職業が存在するのかを知り、大人がどのような思いで働いているのかを知ることで、将来への夢を膨らませていくことがねらいです。

保護者の方や消防署、警察署の方をお迎えして、仕事の内容や大変なことなどをお聞きし、「覚悟と経験が大切だという言葉が心に残った。」「大変な分、やりがいのある仕事だと感じた。」「知識が付くと楽しんで取り組むことができる。」



「自分たちが知らないところで守ってくれている仕事がある。」など、子どもたちの学習の振り返りは、お話を刺激を受けたことが伝わってくる内容ばかりでした。

実際に現場で働いている人と出会い、仕事の話を聞けたことは大変貴重な経験となりました。「失敗は自分を成長させるから挑戦してみようと思った。」「好きなことがあるのであれば、本気で取り組むことが大切。」「逃げずに挑戦することで成長できる。」など、自らの将来に向けて新たな視点や目標ができました。

「地域に支えられた教育活動」

新札幌わかば小学校 教頭 道佛 智志

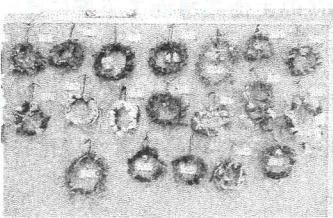
1年生は生活科の学習でアサガオを育てました。種を植え、毎日水やりをすることで、アサガオはぐんぐん成長し、たくさん美しい花を咲かせました。1年生は植物の変化に驚きながら、愛情をもって育てていました。そんなアサガオも秋にはたくさんの種を残した後、枯れてしまいます。命には限りあることや命が受け継がれていくことを体験を通して学んでいました。さて、今年もこの枯れてしまったアサガオのつるを使ってリースをつくることにしました。リースを作るためには、複雑に絡まつたつるを鉢から外し、きれいな「輪」をつくることから始めます。この作業は1年生にとって難しいもので、多くの保護者の方にご協力をいただき、子どもたちも大満足で作業を終えました。特に、ご自分のお子さんだけでなく、多くの子どもたちに関わってくださる姿に改めて感謝すると共に、地域の中で子どもたちが育っていることを実感しました。多くの保護者の方の支えにより、11月には思い思いの飾り付けをして、見事なリースができ上りました。

コロナ禍の中で開校した本校にとっては、これまでに保護者や地域の方との交流は、難しいものがありました。一方で、コロナが5類に引き下げられた今年度に「オータムコンサート in わかば」を初めて企画しました。3名の音楽家の方のヴァイオリン、チェロ、ピアノの演奏による全校児童や地域の方を対象としたコンサートです。子どもたちになじみ深い曲からクラシックの名曲まで、楽器の紹介も交えながらの演奏があり、子どもたちは、ゆったりとした楽しい時間を過ごすことができました。本物の音楽から学ぶ貴重な体験ができた素敵な時間となりました。

この他にも地域の安全を見守ってくださる方との交流や地域の方による出前授業など様々な取組が増えました。改めですが、学校・家庭・地域の連携の大切さが感じられる1年となりました。今後も義務教育学校開設等に向けて、地域・保護者の皆様の益々のお力添えをどうぞよろしくお願ひいたします。



【子どもと保護者が一緒にアサガオのつるを作り活動】



【完成した「アサガオリース】



【地域の方によるコンサート】

事務局より

19世紀の英国の哲学者・教育学者ウイリアム・アーサー・ワードの言葉に次のようなものがあります。「凡庸な教師はただしゃべる。」「良い教師は説明する。」「優れた教師は自ら示す。」「偉大な教師は心に火をつける。」この言葉の「教師」を「親」に置き換えるてもよいかもしれません。このワードの言葉は、我々の不易の心構えとして、自戒・自省の行動指針として存在しています。そして、人の心に火をつけるためには、力のある言葉を学びとり、心に響く話し方で、全力投球することを忘れてはいけないことを教えてくれています。



青葉中



新札幌
わかば小



共栄小